

2016 年度活動報告 大学院授業：日本語（口頭発表 A・B）

早川 杏子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

口頭発表 A・B では、アカデミックな口頭発表の種類と方法を理解し、発表を通じた知的交流ができるようになること、口頭発表のスキルと言語知識を身に付け、聞き手を意識した分かりやすい発表ができるようになることを目標とし、より良い口頭表現を行うための観点や態度を養った上で、口頭発表の演習を行った。

授業は 1 週間に 1 コマで、計 13 または 14 回であった。受講対象者は本学大学院課程に所属する留学生で、受講者の専門は、言語、福祉、経営等、分野領域横断的であったことから、聞き手を強く意識化した相互活動や演習を行った。

2. 授業内容

前半は、口頭発表に関する知識を伝達するとともに、受講者自身の研究テーマの計画を説明させるペアあるいはグループ活動を行い、1 名ずつ 1 回目のプレゼンテーションを行った。発表の様子はビデオで録画し、IC レコーダーで発表時の音声も録音した。学生は、ビデオに記録された発音・音声表現・視線・姿勢などを見直すことで、プレゼン時に与える印象についても学びを得るようにした。また、同時に録音した音声を聞き直してから、日本語アクセントを視覚的／聴覚的に示してくれる OJAD (Online Japanese Accent Dictionary) というオンラインのツール¹⁾を用いて、発音練習を行う活動を取り入れた。再度原稿を読み上げたものを録音し、聞き比べることで発音への意識化を促したり、良いプレゼンとは何かという評価項目そのものを学生自身に考えさせたりした。このように、自律的に学ぶ環境作りのための情報や機会提供も積極的に行った。後半は、2 回目（ないし 3 回目）のプレゼンテーションを行い、相互に発表を評価し、コメントをもらった上で発表の自己評価を行い、課題発見の機会とした。

3. 成果と今後の課題

回を追うごとに、目に見えてプレゼンスキルが向上していったことが、本授業の成果であったが、人によっては、研究テーマが定まっていない人もいたので、今後はそうした学生に対する課題目標設定をどうすべきか考える必要があるだろう。

1) オンライン日本語アクセント辞書 (<http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>) は、国立国語研究所・共同研究プロジェクト（「日本語教育のためのコーパスを利用したオンライン日本語アクセント辞書の開発」(代表：峯松信明, 東京大学)）によって開発されたもので、オンライン上で公開されており、教育・学術研究を目的とした活動に限っての利用が可能である。